

伊 東 直 昭

STRATIFICATION

1991.7.1(MON) - 7.13(SAT)

NAOAKI ITO EXHIBITION

GALLERY SURGE

—この重層—

自分の製作表現は「絵画的」な方法論に沿って来た、ということができるだろうと思われる。しかし通常「完成」された「作品」においては、当然のように分かれ離く思われがちの「イメージ」と「もの」は自分にとって実際の制作過程では信じがたいほど不可避的に分離状態を呈して現れてくる。かって私にこうした視線を補え付けたなにか「次脳」とでもいるべきものがあるということは、単なる悪い風呂さとはどうしても思えない。それはほとんど反対を覚えつつも無理できぬものとして今日も顕在化していく。

おそらく先述したことから、絵画の構造を複数の重層的な構態としての把握が意識される。「絵画」による描画的行為と、通過性を持つがいわゆる「絵の員」ではない幾種類かの物質層とが、観察にも設置されるとそれら要素間の相互の主張、及び混融の振幅と断続とが、具体的に示し合う「制作の方法」とでもいえるだろうか。そして、それらの関係における僅かなベレ、選択との出会いは、一側的な形式的均衡を破ってより錯綜的な進行に仕事の運びを導いていく。このため作ることにおいての「スタイルの選択」は今、当然不可能となる。ただしこれは「形式化」つまり独自の方法論による検証を否定しているのではない。多くの場合はない「自然《じねん》」による相對的差異化や定石となりがちのこの状況で、一方で「形式」の「例えば私」にとっては「絵画」という解体は必要であるがながらも、「絵画的」な「形式化」を手放すことはさらには危険であると思われる。画面に生きられる《しかりえないとはずの》「形式化」こそが、避けがたい偶然の訪れと技術の進路に向かい合ふる場であり、そこで探求として「制作」はある。

Stratification

It seems that the methodology called "pictorial art" is what I have followed for my production and expression. Usually, however, the "image" and "object" inseparable from a "complete artwork" appear, developing the dissociation that seems unbelievably inevitable in actual making process.

It is not simply my imagination to believe in the influence of some "context" which implanted such vision inside me many years ago. Whenever I work, the context gets actualized as something repellent but to be reckoned with.

In said manner, I perceive the structure of a painting as a stratified made of membranes. To express my production method more specifically: Where drawings with paints and the stratification of transmissive materials other than paints are installed repeatedly, each element claims its importance and corrodes others with amplitudes and intermissions.

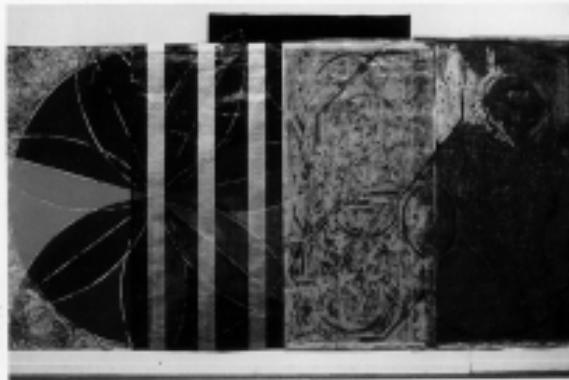
Subtle gaps and delays I encounter in relating these elements break through the uniform equilibrium and lead my production to intricate threads. Then, it becomes almost impossible to "choose a style" for production. However, it does not necessarily gainsay the verification by means of "formalization" — one's original methodology —.

Today, the "relative differentiation" owing to nature tends to be accepted as a formula. Under such circumstances, I strongly feel the necessity to disassimilate "formality" (which means "painting" to me), but also feel it risky to dispose of [pictorial] "formalization".

"Formalization" which allows me to express my own characteristic — that is exactly what "formalization" should be — is the very thing in which I can confront the link between unavoidable fortuitous and experiments. In this regime my "production" becomes "pursuit".



Title: "Our Faces"
Material: mirror, cotton, aluminum box, acrylic
Size: 430cm
Place: Artist Gallery Mts, 1991



Title: T-(-)
Material: aluminum, acrylic, crayon, oil, cotton
Size: 300×360cm
Place: Gallery Lunardi, 1991



Title: "Our Faces"

Material: cotton, bia, wire, polyester, polyurethane, acrylic, oil, printed cloth

Size: 380×800cm

Place: Kiryu Elementary School, 1991

photo by Takeo Hasugawa

伊東直朗 鳴居

Naoki Ito Private History

280	横顔のスクリーン	88	Born in Kanagawa Japan
281	横顔女と鏡の絵画	89	U.F.C.Japan Art University of Fine Arts, Division of Painting
282	見方で見る絵画	90	R.F.A. Tokyo Art University
283	見方で見る絵画	91	(Solo Exhibitions)
284	萬葉歌集	92	Gallery Shinko Tokyo
285-286	アート・アート・アート	93-94	Gallery Q! Tokyo
286-287	アート・アート・アート	95-96	Gallery Custom Tokyo
288	萬葉歌集	97	Gallery Paragon II (Tokyo)
289-290	万葉歌集	98	Space "H" (Tokyo)
291	万葉歌集	99	Gallery Fuji United
292	アート・アート・アート	100	Gallery ARTWORKS D (Tokyo)
293	アート・アート・アート	101	Initial Gallery (Tokyo)
294	アート	102	Gallery K! (Tokyo)
295	アート・アート	103	Gallery Singe (Tokyo)
296	アート・アート	104	
297-298	アート・アート	105	(Group Exhibitions)
299	"万葉歌集"美術展	106	2nd SHISEI Art Festival
300-301		107	(Stop-Supper-Festival)
302	"萬葉" (東京)	108	Grid "K" (Tokyo)
303	"萬葉" (大阪)	109	"Book art in Museum" (Tokyo)
304	"萬葉歌集" (福井)	110	"NEW DESIGN" Gallery (Tokyo)
305	"萬葉歌集" (福井)	111	"Art is not art studio"
306	"VISIBLE BORDER" (大阪)	112	"VISIBLE BORDER" Gallery SATSUKI
307	"萬葉" (大阪)	113	(Festival)
308-311	"萬葉歌集" (福井)、"萬葉歌集" (東京)	114-117	"Stop Underground Art" (Gifu)
312	"萬葉歌集"	118	"STOP" (BTG) (Tokyo)
313	"VISIBLE BORDER" (大阪)	119	"LINK" (SENSETOR) (Tokyo)
314	"萬葉歌集" (福井)	120	"Art is not Art" (Tokyo)
315	"萬葉歌集" (福井)	121	"VISIBLE BORDER" Gallery SATSUKI
316	"萬葉歌集" (福井)	122	(Festival)
317	"萬葉歌集" (福井)	123	"Stop Underground Art" (Gifu)
318	"VISIBLE BORDER" (大阪)	124	"STOP" (BTG) (Tokyo)
319	"VISIBLE BORDER" (大阪)	125	"LINK" (SENSETOR) (Tokyo)
320	"萬葉歌集" (福井)	126	"Art is not Art" (Tokyo)
321	"Visible Border" (大阪)	127	"Person to Person" (Tokyo)
322	"VISIBLE BORDER" (大阪)	128	"Person to Person" (Tokyo)
323	"VISIBLE BORDER" (大阪)	129	Second Annual International Exhibition Miyazaki Art (Miyazaki)
324	"アート" (東京)	130	The 20th Art Today Competition "Phase Multiple Movement" (Tokyo)
325	"アート" (東京)	131	
326	"アート" (東京)	132	
327	"アート" (東京)	133	
328	"アート" (東京)	134	
329	"アート" (東京)	135	
330	"アート" (東京)	136	
331	"アート" (東京)	137	
332	"アート" (東京)	138	
333	"アート" (東京)	139	
334	"アート" (東京)	140	
335	"アート" (東京)	141	
336	"アート" (東京)	142	
337	"アート" (東京)	143	
338	"アート" (東京)	144	
339	"アート" (東京)	145	
340	"アート" (東京)	146	
341	"アート" (東京)	147	
342	"アート" (東京)	148	
343	"アート" (東京)	149	
344	"アート" (東京)	150	
345	"アート" (東京)	151	
346	"アート" (東京)	152	
347	"アート" (東京)	153	
348	"アート" (東京)	154	
349	"アート" (東京)	155	
350	"アート" (東京)	156	
351	"アート" (東京)	157	
352	"アート" (東京)	158	
353	"アート" (東京)	159	
354	"アート" (東京)	160	
355	"アート" (東京)	161	
356	"アート" (東京)	162	
357	"アート" (東京)	163	
358	"アート" (東京)	164	
359	"アート" (東京)	165	
360	"アート" (東京)	166	
361	"アート" (東京)	167	
362	"アート" (東京)	168	
363	"アート" (東京)	169	
364	"アート" (東京)	170	
365	"アート" (東京)	171	
366	"アート" (東京)	172	
367	"アート" (東京)	173	
368	"アート" (東京)	174	
369	"アート" (東京)	175	
370	"アート" (東京)	176	
371	"アート" (東京)	177	
372	"アート" (東京)	178	
373	"アート" (東京)	179	
374	"アート" (東京)	180	
375	"アート" (東京)	181	
376	"アート" (東京)	182	
377	"アート" (東京)	183	
378	"アート" (東京)	184	
379	"アート" (東京)	185	
380	"アート" (東京)	186	
381	"アート" (東京)	187	
382	"アート" (東京)	188	
383	"アート" (東京)	189	
384	"アート" (東京)	190	
385	"アート" (東京)	191	
386	"アート" (東京)	192	
387	"アート" (東京)	193	
388	"アート" (東京)	194	
389	"アート" (東京)	195	
390	"アート" (東京)	196	
391	"アート" (東京)	197	
392	"アート" (東京)	198	
393	"アート" (東京)	199	
394	"アート" (東京)	200	
395	"アート" (東京)	201	
396	"アート" (東京)	202	
397	"アート" (東京)	203	
398	"アート" (東京)	204	
399	"アート" (東京)	205	
400	"アート" (東京)	206	
401	"アート" (東京)	207	
402	"アート" (東京)	208	
403	"アート" (東京)	209	
404	"アート" (東京)	210	
405	"アート" (東京)	211	
406	"アート" (東京)	212	
407	"アート" (東京)	213	
408	"アート" (東京)	214	
409	"アート" (東京)	215	
410	"アート" (東京)	216	
411	"アート" (東京)	217	
412	"アート" (東京)	218	
413	"アート" (東京)	219	
414	"アート" (東京)	220	
415	"アート" (東京)	221	
416	"アート" (東京)	222	
417	"アート" (東京)	223	
418	"アート" (東京)	224	
419	"アート" (東京)	225	
420	"アート" (東京)	226	
421	"アート" (東京)	227	
422	"アート" (東京)	228	
423	"アート" (東京)	229	
424	"アート" (東京)	230	
425	"アート" (東京)	231	
426	"アート" (東京)	232	
427	"アート" (東京)	233	
428	"アート" (東京)	234	
429	"アート" (東京)	235	
430	"アート" (東京)	236	
431	"アート" (東京)	237	
432	"アート" (東京)	238	
433	"アート" (東京)	239	
434	"アート" (東京)	240	
435	"アート" (東京)	241	
436	"アート" (東京)	242	
437	"アート" (東京)	243	
438	"アート" (東京)	244	
439	"アート" (東京)	245	
440	"アート" (東京)	246	
441	"アート" (東京)	247	
442	"アート" (東京)	248	
443	"アート" (東京)	249	
444	"アート" (東京)	250	
445	"アート" (東京)	251	
446	"アート" (東京)	252	
447	"アート" (東京)	253	
448	"アート" (東京)	254	
449	"アート" (東京)	255	
450	"アート" (東京)	256	
451	"アート" (東京)	257	
452	"アート" (東京)	258	
453	"アート" (東京)	259	
454	"アート" (東京)	260	
455	"アート" (東京)	261	
456	"アート" (東京)	262	
457	"アート" (東京)	263	
458	"アート" (東京)	264	
459	"アート" (東京)	265	
460	"アート" (東京)	266	
461	"アート" (東京)	267	
462	"アート" (東京)	268	
463	"アート" (東京)	269	
464	"アート" (東京)	270	
465	"アート" (東京)	271	
466	"アート" (東京)	272	
467	"アート" (東京)	273	
468	"アート" (東京)	274	
469	"アート" (東京)	275	
470	"アート" (東京)	276	
471	"アート" (東京)	277	
472	"アート" (東京)	278	
473	"アート" (東京)	279	
474	"アート" (東京)	280	
475	"アート" (東京)	281	
476	"アート" (東京)	282	
477	"アート" (東京)	283	
478	"アート" (東京)	284	
479	"アート" (東京)	285	
480	"アート" (東京)	286	
481	"アート" (東京)	287	
482	"アート" (東京)	288	
483	"アート" (東京)	289	
484	"アート" (東京)	290	
485	"アート" (東京)	291	
486	"アート" (東京)	292	
487	"アート" (東京)	293	
488	"アート" (東京)	294	
489	"アート" (東京)	295	
490	"アート" (東京)	296	
491	"アート" (東京)	297	
492	"アート" (東京)	298	
493	"アート" (東京)	299	
494	"アート" (東京)	300	
495	"アート" (東京)	301	
496	"アート" (東京)	302	
497	"アート" (東京)	303	
498	"アート" (東京)	304	
499	"アート" (東京)	305	
500	"アート" (東京)	306	
501	"アート" (東京)	307	
502	"アート" (東京)	308	
503	"アート" (東京)	309	
504	"アート" (東京)	310	
505	"アート" (東京)	311	
506	"アート" (東京)	312	
507	"アート" (東京)	313	
508	"アート" (東京)	314	
509	"アート" (東京)	315	
510	"アート" (東京)	316	
511	"アート" (東京)	317	
512	"アート" (東京)	318	
513	"アート" (東京)	319	
514	"アート" (東京)	320	
515	"アート" (東京)	321	
516	"アート" (東京)	322	
517	"アート" (東京)	323	
518	"アート" (東京)	324	
519	"アート" (東京)	325	
520	"アート" (東京)	326	
521	"アート" (東京)	327	
522	"アート" (東京)	328	
523	"アート" (東京)	329	
524	"アート" (東京)	330	
525	"アート" (東京)	331	
526	"アート" (東京)	332	
527	"アート" (東京)	333	
528	"アート" (東京)	334	
529	"アート" (東京)	335	
530	"アート" (東京)	336	
531	"アート" (東京)	337	
532	"アート" (東京)	338	
533	"アート" (東京)	339	
534	"アート" (東京)	340	
535	"アート" (東京)	341	
536	"アート" (東京)	342	
537	"アート" (東京)	343	
538	"アート" (東京)	344	
539	"アート" (東京)	345	
540	"アート" (東京)	346	
541	"アート" (東京)	347	
542	"アート" (東京)	348	
543	"アート" (東京)	349	
544	"アート" (東京)	350	
545	"アート" (東京)	351	
546	"アート" (東京)	352	
547	"アート" (東京)	353	
548	"アート" (東京)	354	
549	"アート" (東京)	355	
550	"アート" (東京)	356	
551	"アート" (東京)	357	
552	"アート" (東京)	358	
553	"アート" (東京)	359	
554	"アート" (東京)	360	
555	"アート" (東京)	361	
556	"アート" (東京)	362	
557	"アート" (東京)	363	
558	"アート" (東京)	364	
559	"アート" (東京)	365	
560	"アート" (東京)	366	
561	"アート" (東京)	367	
562	"アート" (東京)	368	
563	"アート" (東京)	369	
564	"アート" (東京)	370	
565	"アート" (東京)	371	
566	"アート" (東京)	372	
567	"アート" (東京)	373	
568	"アート" (東京)	374	
569	"アート" (東京)	375	
570	"アート" (東京)	376	
571	"アート" (東京)	377	
572	"アート" (東京)	378	
573	"アート" (東京)	379	
574	"アート" (東京)	380	
575	"アート" (東京)	381	
576	"アート" (東京)	382	
577	"アート" (東京)	383	
578	"アート" (東京)	384	
579	"アート" (東京)	385	
580	"アート" (東京)	386	
581	"アート" (東京)	387	
582	"アート" (東京)	388	
583	"アート" (東京)	389	
584	"アート" (東京)	390	
585	"アート" (東京)	391	
586	"アート" (東京)	392	
587	"アート" (東京)	393	
588	"アート" (東京)	394	
589	"アート" (東京)	395	
590	"アート" (東京)	396	
591	"アート" (東京)	397	
592	"アート" (東京)	398	
593	"アート" (東京)	399	
594	"アート" (東京)	400	
595	"アート" (東京)	401	
596	"アート" (東京)	402	
597	"アート" (東京)	403	
598	"アート" (東京)	404	
599	"アート" (東京)	405	
600	"アート" (東京)	406	
601	"アート" (東京)	407	
602	"アート" (東京)	408	
603	"アート" (東京)	409	
604	"アート" (東京)	410	
605	"アート" (東京)	411	
606	"アート" (東京)	412	
607	"アート" (東京)	413	
608	"アート" (東京)	414	
609	"アート" (東京)	415	
610	"アート" (東京)	416	
611			

20世紀の抽象画の歴史は、一方で絵画が物質であることを確認し、また地方で非物質的な方向を探り続けていた。非物質に向かう絵画は私たちの手の中から離れて上昇し、靈的な存在となる。物質に向かう絵画は必然的に現実へと降り下し、現実の世界のなかの手で触れることが可能となる。

伊東直照はこの内側に引き奥へとしまった絵画を、両極の和解ではなく、まさにその両極の対立の中で成立させようとしている。まずは、物質性。60年代の中頃から伊東の絵画には、なんらかの、観客の側に突出する、たいていは金属質の物体が付随させてきた。それらは、手前に出ることによって表面を側面へと導き、絵画の正面性を危うくする。それと同時に、これらの固い物質は非物質的な絵画がじつは物質であることを思い出させる入口でもあり、いわば絵画から現実の空間に向かって、絵画に足を踏み出させる一つのようなものであった。

ところが、同じようにしばしば導入される金属であるにもかかわらず、パンチング・メタルのような素材が果たす役目は、逆に絵画と平行に接続して取り付けられ、そのため多くの穴を通して画面が見える。この通過して現れた画面は、物質であることを確認したはずの絵画を、ふたたび手で触れることができない、頭で見るだけの非物質的なイメージへと押し戻してしまう。しかも、このフィルターのよくなな素材にまで彩色してあるために、非物質と物質はさらに錯綜し始める。

昨年あたりから、この構造はさらに複雑なものとなってきている。つねに黒板であったストライプが、より前面に現われ、両部の壁面にまで突出している。それはつまり支持体をしたないイメージであり、非物質の極端である。また今年の日本／ベルギー現代美術交流展「底辺へ」では、ショーテーで引いた青色と銀のストライプとともに、まずれない物質で、しかも碧藍色を示す墨色でもある同じ黄色と黒のカーブを鏡像に強引に流らすつもりしている。

もちろん、この展開を絵画からインスタレーションへ、と捉えるのは間違っている。伊東直照の抱いている問題はなによりも絵画の問題なのであり、物質性と非物質性という両極にそれぞれ別の立面相をもつ、二面的な存在としての絵画をそのまま現前させるための一過程なのである。

前田裕司(埼玉県立近代美術館学芸員)

Yuki Maeyama

(Assistant Curator, Saitama Prefectural Museum of Modern Art)

The 20th century has seen a movement in the history of paintings which continuously explores the immateriality while confirming the materiality of a painting. Paintings directed toward "immateriality" would leave our hands and ascend to be spiritual things, while those directed toward "materiality" desire to be accessible in the realities of life.

Naoki Ito attempts to form a painting which is torn apart at both ends of the spectrum, not in harmony but in the antagonism between them. To explain his "materiality", most his paintings after mid 1980 had some metallic object protruding toward viewers. The projection of such an object leads the viewer's sight to either rank of the whole picture, thereby jeopardizing the quality of the center.

At the same time, such solid object works as a threshold to remind the viewer that the spiritual-looking painting is in fact a "material" — a loss of vision from the periphery to the realities of a painting.

Despite its metallic characteristic, the material such as punching metal he often uses is effective to enhance the immateriality of an artwork. Such a see-through material is usually installed parallel to the nerves, allowing viewers to see a picture through numerous holes. The picture whose materiality has been confirmed visually through holes is the next moment transformed into an immaterial and inaccessible thing. Painting even in filters increases the intricacy of both immateriality and materiality.

It seems that he has been adopting more complicated structures since last year: Stripes which used to play second fiddle in his works are now flattened in the front, even out to the walls of a gallery. These stripes create an unsupportable image — the climax of immateriality.

His work exhibited in the Japan and Belgium Contemporary Art Exchange "Atakusai" this year was composed of yellow and black stripes drawn by chalk together with yellow and black (burning colors) ropes (which are absolutely material) stretched over in all directions.

This development in his art should not be construed as a move from painting to installation. The subject he challenges is "painting" and nothing else. His attempt is, therefore, one of the phases for the candid realization of double-faced paintings standing upon both extremes of "materiality" and "immateriality".

GALLERY
SURGE

会場: ギャラリー・サーボ 東京都千代田区吾妻町2-7-13後退ビル3F 電話: 03-3861-2581 FAX: 03-3861-2582

Publisher: Gallery Surge 2-7-13, Iwamoto-cho, Chiyoda-ku, Tokyo Tel. (03)3861-2581 Fax. (03)3861-2582

Printed by Sanyo Printing Co., Ltd © Naoki Ito and Gallery Surge

Supported by 山陽印刷株式会社

